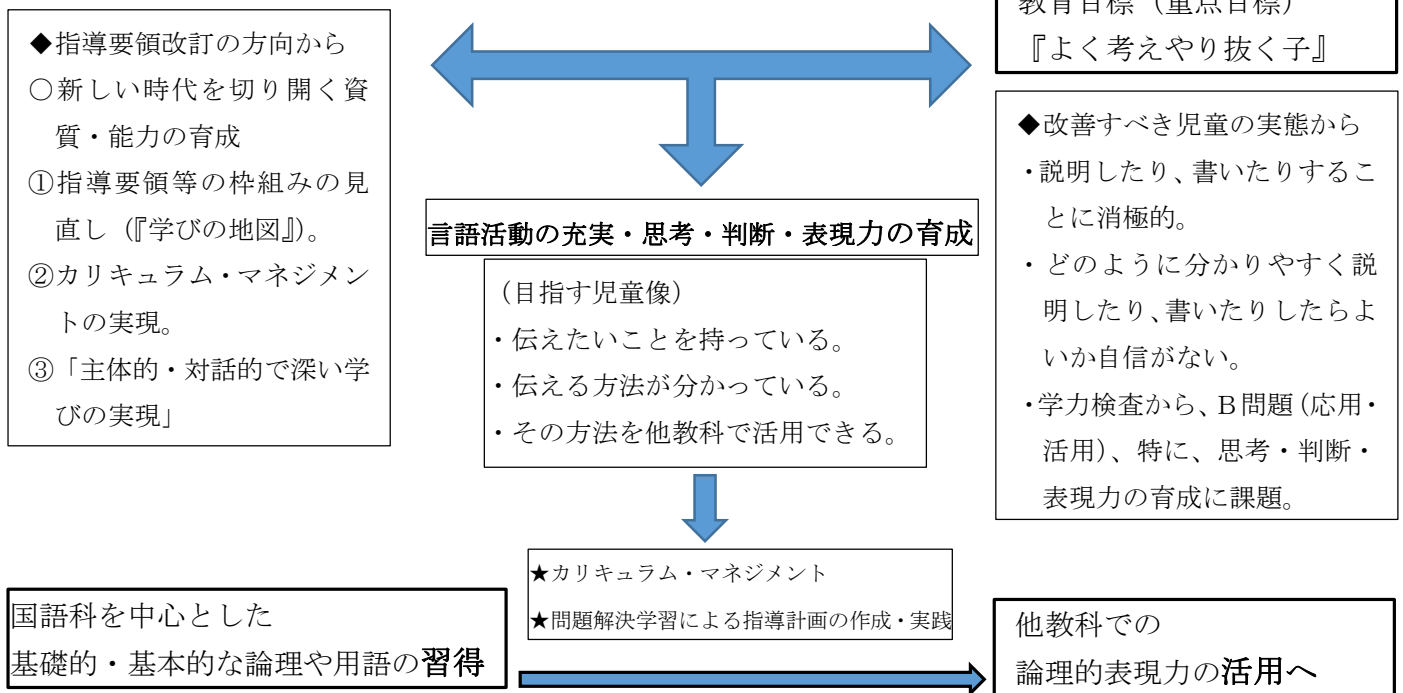


『児童に論理的表現力を身に付けさせる』校内研究

平成29年4月 福生市立福生第三小学校

1 研究主題 『論理的な表現力の育成』

2 研究の構想と研究内容



校内研を年間15回実施（講演1回・研究授業3回）

（2年目以降）

1 『読むこと』（説明文）から『書くこと・話すこと』を関連付けた指導の工夫

①論理と用語を定着させる説明文読むことの指導の工夫を行う。

- ・順序、文章構成、考えと根拠、具体と抽象などの論理を身に付けさせる。
- ・問いと答え、指示語・接続語、文末などの表現技法。
- ・主語述語、段落・要点・要約など、用語を理解させ、定着させる。

②『読むこと』と『書くこと』を関連付ける単元指導計画の作成と研究授業を実施する。

2 できた作品を読み合う交流活動の実施。

- ・児童が書いた説明文・報告文・紹介文などを本としてまとめ、交流し合い、書くことの意欲を高める。

3 何がどの程度身に付いたのかを数値で評価。

- ・論理や用語がどの程度身に付いたのかを1学期と3学期に調査し、成果をとらえるようにする。

1 継続して国語力を高め、言語能力の向上を図る。

2 他教科でも問題解決的な学習の実践を進め、論理的な表現力を高める。

①総合的な学習では問題解決的な学習の指導計画を作成し実践する。（課題設定、調べ、まとめ、ポスターセッション）

②算数的活動を筋道立てて説明できるようにする。（順序・帰納法、演繹法、類推法の論理を活かす）

③社会科では問題解決的な学習の指導計画を作成し、実践する。（課題設定、調べ、まとめ、発表。）

④理科の観察・実験のまとめ、考察では、論理を活用する。（考えとその根拠）

⑤体育では、学習カードを工夫し、めあてと練習の仕方を論理的に活用できるようにする。

⑥特活では学級活動、集会、行事で論理的な表現力を活かす計画を検討し、実践する。

日常生活で『論理』を活かした『書くこと』『話すこと』の活動を位置付け実践
・移動教室のガイドブック作成や見学や移動教室の報告、読書週間での図書の紹介、学級でのスピーチなど、日常の生活に「書く・話す」活動を位置付ける。